

厚生文教委員会行政視察報告書

報告者名	委員長 浜田 千秋
視察日	① 令和7年4月21日（月）～ ② 令和7年4月22日（火）
視察場所	① 東京都武蔵野市 ／ ② 東京都港区
参加者	浜田 千秋（委員長）、友田 博文（副委員長）、 大浦 まさし、坂本 健治、岡田 勉、北川 美穂 （随行：事務局 大西 摩紀子、香山 幸輝）
視察項目	① 武蔵野プレイス施設見学について ② 港区学童クラブ等弁当配送事業について

所 感

① 4月22日（月）東京都 武蔵野市 ～武蔵野プレイス施設見学について～

●武蔵野市の概要（令和7年4月1日現在）

人 口 148, 285人
世帯数 79, 644世帯
面 積 10. 98km²

●視察内容

<施設の概要>

- ・2011年7月開館
- ・地上4階 地下3階
- ・延べ床面積 9, 809. 76m²
- ・開館時間 9:30～22:00(水曜日休館)
- ・昨年度来館者数 1, 691, 328人(1日あたり約5, 510人)
- ・機能
図書館、市民活動支援、青少年活動支援、生涯学習支援
- ・管理運営
公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団



<内 容>

本施設については、立地条件が駅前ということで、開館時間が長く、学校帰りや仕事帰りの方々にも利用しやすい環境である。各階の機能として、来館者が短時間ではなく、滞在型を目指した工夫が見られた。建物自体の建築も非常に珍しく、大きな空間と高い天井、吹き抜けも設けられており、人を包み込むような空間が演出されている。

図書については、全ての階に蔵書があったが、ゾーニングがしっかりしていて、大人がくつろぎながら本に親しむことが出来るスペースや、小さな子どもが寝転がってもいいような部屋もあり、そこには子ども用トイレ、授乳室、ベビーバギーを置くこともできるように配慮が行き届いている。また、小学生や幼児の貸出図書については、数多くの「紙芝居」やビックブックなどの充実した本のラインナップを揃えている。

次に、生涯学習の支援機能の取組みについて、「武蔵野地域自由大学」(亜細亜・成蹊・

東京女子・日本獣医生命科学・武蔵野)と称して地域社会に還元されるような講座や、情報交換、情報提供、老壮シニア講座なども開催されており、土曜学校等の事業として週休2日になったころから、地域の小・中学校に出向き、ロボットのプログラミングやお金についてなどの研修も実施している。

次に、地下2階のティーンズスタジオにおいては、パフォーマンススタジオ、オープンスタジオ、サウンドスタジオ、クラフトスタジオをはじめ、子ども達が飲食をしながら宿題やスポーツ、読書、ゲームをすることが出来るスペースがあり、多くの子ども達が思い思いの時間を過ごしていた。

最後に、本施設は災害時に帰宅困難者の受け入れもできる施設となり、職員用の備蓄も備えられている。

●複合施設のメリット・デメリット

メリット:事業運営については、機能間連携が行いやすい。

デメリット:運営面で市の主管課がいくつかまたがるため、進行が遅れることがある。

●今後の課題

年間約80万人の利用想定であったため、給排水設備、電気設備、空調設備等に負荷がかかっており、メンテナンスが当初よりも早期に必要なになっている。

また、利用者が多いことで排水管のつまりなども想定よりも多く、施設管理面では、経年および使用頻度による不具合発生率の低減と、不具合発生時の運営への影響を抑える仕組みづくりが課題となっている。

<まとめ>

公共施設という観点からすると、先述した図書やその他の部分についても今までにない新しいタイプの公共施設であり、非常に面白い取り組みであると感じた。

その中でも、地下2階の子どもたちのスペースは、にぎやかな笑い声や話し声があり、不登校やひきこもりの学生も利用しているとのことであった。滞在型であるため、好きなだけいても気が引けることなく、自由に過ごせるのは非常に面白い取り組みだと感じた。また、1階の真ん中に配置されていたオープンキッチンには非常に存在感があり、カフェの横には総合案内があり、親しみを感じることができた。



一方で、図書の中には、拡大鏡や対面朗読など、障がい者への配慮もあったが、聴覚障がい者及び聴覚障がい児の方が利用できる字幕の入ったビデオなどの設置がなかったのが残念であり、点字図書もあればより多くの利用者に利用していただけるのではと感じた。

和泉市においても、今後整備される(仮称)多世代交流拠点施設では、今までの固定観念にとらわれることなく、遊び心が感じられ、誰もが過ごしやすい施設をめざしてほしい。

和泉市における公共施設にも取り入れてほしい要素がたくさんあり、有意義な視察となった。ありがとうございました。

②4月22日（月）東京都 港区 ～港区学童クラブ等弁当配送事業について～

●港区の概要（令和7年4月1日現在）

人 口 267,780人
世帯数 153,885世帯
面 積 20.36km²

●視察内容

<事業の概要>

学童クラブ等を利用する児童の昼食弁当を希望する保護者が、区が契約した弁当配送業者に対して、スマートフォンやパソコンから注文及びオンライン決済を行うことで、希望した利用日に弁当が学童クラブ等へ配送される。なお、区は保護者が弁当配送業者から購入した弁当が1つからでも施設に届くよう、配送費の一部を負担している。



○港区の事業の特徴

- ・区が主体で契約
- ・オンライン注文、決済のみ
- ・お弁当1個から配送可能
- ・リユース食器を使用、残飯回収
- ・学童クラブに入会していない児童に対する配慮として待機児童や一般利用の児童に対しても提供（アレルギーなどのリスクもあるが、始めることを優先）
- ・請け負える事業者を選考

1) 港区の状況

- ・港区は人口増加が続く見込みであり、10年間で学童クラブの在籍者数は約1.5倍に増加している。
- ・実施している施設の規模、設置目的、機能だけでなく運営形態も多様であった。
- ・区が直営の児童館以外に、民間ビルを借りている学童クラブや学校内に設置されている放課後クラブなど、5種類の施設で実施している。

2) 事業実施の背景

- ・学童クラブを利用している保護者は、基本的に共働き家庭が多い。
- ・弁当を準備するのが負担であるという声もあり課題が浮き彫りとなる。
- ・行政が介入する必要性があると判断。
- ・子ども家庭庁の設置に伴い、子育て世帯へ財源投下する世論の高まりを受け、令和5年に子ども家庭支援に関して事業化を本格化することを決定。

3) 取組みにおける工夫

- ・過去に、保護者任意のデリバリーサービスを実施していたが、最低注文数に届かないと注文ができないなど、保護者の負担が大きかった。
- ・容器と残飯を施設で処分できないなどの課題があった。

4) 現状と今後の取組

- ・アレルギー食にも対応している。
- ・弁当の販売価格:540円
- ・子ども用献立を工夫している。
- ・今後は、学校が午前中で終わる始業式や終業式の日に対応を希望する声がある。
- ・来年4月からは、小学1年生の給食が始まるまでの期間も注文できるように対応予定。

<まとめ>

和泉市でも過去に取組みを始めたが、市は業者を決めるところまでしか関与しておらず、保護者と業者との直契約という形でスタートした。しかし、電子決済型ではないため、お弁当代を回収することが出来ないケースや、当日の朝にオーダーやキャンセルなどの連絡が入るなど、混乱をきたしていた。

港区のように、トラックを市が1台 13,000円で契約を行い(平日は6台、土曜日は4台)1個からでも配送できるように支援を行っていることは良い例だと感じた。電子決済を導入している業者は、和泉市内には存在しないが、港区でも他自治体の業者との契約で事業の実施に至っていることを考えると、和泉市においてもまだまだ検討の余地があると感じる。

和泉市で実施した際の弁当の単価は450円前後で、港区より安価ではあるが、地域性の観点から、500円以上のお弁当は需要が少ないのではと危惧する。

今回の視察を通して、業者だけに頼るのではなく、市も一緒になって取組まなければ、学童クラブへの弁当の配送を再度実行することはできないと痛感した。また、港区の事例から、どこに住んでいても、学童クラブの配食サービスは保護者に喜ばれる制度であり、今後、和泉市でも検討する必要があると感じた。

最後に、港区の議場も見学させていただいた。
ありがとうございました。

